

格差社会を生きる

～ 貧困化する若者たち～

経済がグローバル化する中で雇用の規制緩和が推進され、パート、アルバイト、契約、嘱託、派遣、請負、期間工などの「非正規」雇用労働者が、被雇用者の33.2%に増えました。特に15～24歳は46%で、青年の2人に1人は非正規雇用です。派遣などで働くフリーターの半分の人が年収100万円以下、8割の人が200万円以下といわれ、ワーキングプアやネットカフェ難民の問題など、若者が貧困化している実態が次々とあげられています。

格差社会の中で、フリーターやニートは個人の問題や自己責任と捉える風潮は、なぜ起こるのか。社会問題やシステムの問題とは何か。日本におけるセフティネットとは、等々。私たちは格差社会をどう生きるのかを、共に考えあうためのセミナーです。

各回40人
(多数抽選)

参加費
無料

全3回

実施日時
平成19年 **10月27日(土)** 午後2時～4時
11月1日(木)、9日(金)
午後7時～9時

開催会場 **難波市民学習センター**

講座内容

	テーマ	講師	日時
第1回	生きさせろ! 格差社会における自己責任論をぶっとばせ	雨宮 処凜さん <対談> フリーターの当事者(はけん・パート関西労組) コーディネーター・内藤進夫さん (はけん・パート関西労組神戸office/相談員)	10.27(土) 14時～16時
第2回	不安定就労から野宿へ 野宿者問題とフリーター	生田 武志さん (野宿者ネットワーク)	11.1(木) 19時～21時
第3回	どう生きぬくか ～企業と社会の利益一致の可能性と、プレカリアートの創造性～	渡邊 太さん (社会学者)	11.9(金) 19時～21時

講師紹介

あまみや かりん
雨宮 処凜さん



1975年生まれ。幼少期からイジメを受け、10代は家出やリストカットをくり返す。21歳の時、愛国パンクバンドでボーカルとして活動し、99年その活動がドキュメント映画に。00年、自伝『生き地獄天国』を出版、作家デビュー。「生きづらさ」「自殺」「戦場」を主にテーマとした小説、エッセイ多数。07年『生きさせろ! 難民化する若者たち』を出版。現在、新自由主義の中、生活も職も心も不安定さに晒される人々(プレカリアート)の問題に取り組み、取材、執筆、運動中。

いた たけし
生田 武志さん



1964年生まれ。大学在学中より野宿者支援活動を開始。00年キルケゴール論にて群像新人文賞優秀賞受賞(評論部門)。著書に05年「『野宿者襲撃』論」、07年「ルポ 最底辺-不安定就労と野宿」。6月に発刊した雑誌「フリーターズフリー」のプロジェクトの一員。

わたなべ ふとし
渡邊 太さん



大阪大学大学院法学研究科特任研究員(任期2007年度末まで)、関西大学他非常勤講師・専門社会調査士。非正規雇用の社会学者として、プレカリティ(仕事と生活の不安定)問題、職場での過労と虐待、NPOの労働環境、引きこもり、オカルト資本主義といった主題に関心を持つ。消費主義批判の実践として、「場所」を創る運動にも取り組む。論文「自宅カフェの文化的実践に関する記録」(『インパクション』153号)等。

申込方法

- ①往復ハガキもしくはFAX・来館で、お名前・年齢・ご住所・連絡先・講座名(格差社会を生きる)・希望日を記入の上、下記までお申し込みください。また、インターネットの場合は、大阪市生涯情報提供システム(<http://www.manabi.city.osaka.jp/>)からお申し込み下さい。
- ②締切は10月19日(金)必着。

主催・申込・問合せ

大阪市立難波市民学習センター

〒556-0017 大阪市浪速区湊町1-4-1 (OCATビル4階)
Tel. (06) 6643-7010 Fax. (06) 6643-7050

※お申し込みの際に伺った個人情報は、講座の連絡のみに使用します。



- 地下鉄四ツ橋線・千日前線・御堂筋線なんば駅下車
- 近鉄難波駅下車西側改札 ●南海難波駅下車
- JR難波駅 ●バス「JR難波駅」下車すぐ